

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、高齢者部門それぞれの理念を基に事業所独自の理念をかかげ、会議等で再確認をしながら各スタッフ間で共有している。また、パンフレットや事業所内にも掲示し、全スタッフの意識付けとしている。	法人としての理念や母体施設としての処遇理念があり、一人ひとりの利用者を尊重し住み慣れた地域の中で喜びのある暮らしを支えるという主旨のホーム独自の理念を掲げている。それぞれの理念については利用契約時に利用者や家族に説明し、加えてサービスの基本方針などでホームの取り組み姿勢を示している。理念にそぐわない職員本位の支援であったり、職員が迷っている時には場面場面でユニットリーダーや介護課長が助言とともに指導している。また、定例の職員会議で全体の問題として話し合い、理念が具体的に活かされているか利用者が生き生きと楽しく生活しているかどうかなど、基本に立ち返り話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や各行事、防災関連等を中心に地域と交流する機会を設け、様々な話しをしながら、事業所側からも地域に出向いて行けるよう取り組んでいる。	法人として区に協力費を納め、区内での活動にも参加している。母体施設と合同の夏祭りを回覧板等で告知し住民とふれあったり、在宅にいる高齢者との交流の場、「お茶のみサロン」にも大勢の利用者が出掛け交流している。また、ほぼ毎月、保育園児とのふれあいの場があり、同じ地域にある警察学校生の訪問、中学生の職場体験、福祉の仕事を目指す短大生や専門学校生の実習などの受け入れも行っている。オカリナやマジック、編み物等のボランティアも定期的に訪れ利用者も楽しんでいる。地域の住民からは野菜や果物などの差し入れもあり、おつきあいの輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各行事や運営推進会議、視察などを通して認知症の方々の理解を啓発している。また、その時々に応じて勉強会等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して様々な議案の基、普段ご家族からなかなか聞けない要望、意見、地区からの要望、意見等を現場に持ちかえり、サービスの向上につながるよう努めている。	家族、区長、民生児童委員、自治消防団長、市職員、地域包括支援センター職員等の出席を得て年6回開催している。同じ法人内の地域密着型特別養護老人ホームやデイサービスと合同で行い、事業内容や活動等を報告し、意見や助言を頂いている。毎年度の初回時には委員の交替もあることから会議の目的などを話し、回を重ねるごとに参加者からも防災や防犯、衛生面でのアドバイスなど、有益な話が多く、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	訪問や運営推進会議を通じて相談事や情報交換、指導、助言をいただきながら対策等に活かしている。	介護認定の更新申請は家族の依頼を受けて代行している。また、認定調査員がホームに来訪し、職員が情報提供などで協力している。介護あんしん相談員が毎月1回訪問し、利用者と話したり職員を労い話をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会で検討した活動内容を、事業所会議等で全スタッフが周知、共有できるように話し合っている。困難事例の対応は、関係機関等相談をもちかけて検討している。	法人内に権利擁護委員会がありホームからも委員が出席しホーム内外の研修も組まれている。研修やホーム会議での話し合いを通し職員は身体拘束の内容やその弊害を認識しており、利用者の行動を制限しないケアを実践している。外出傾向の利用者には落ち着くように話し、職員が付き添い外出するようにしている。利用者が生き生きと楽しく暮らしていただけるような雰囲気作りに職員全員で努めている。	

グループホーム柳島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や研修、会議等で、様々な事例を検証したり、全スタッフにアンケートをとって、日々の支援態様を見つめ直すきっかけ作りを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修への参加や、各関係者との話し合いを通して学ぶ機会を持ちながら、知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学等事前の面談時に概要説明を行いながら契約にむすびつけ、説明を行っている。入居後先々を見据えた説明等しながら理解を図っている。改定時も書面にて説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会時等を利用して意見や要望等話して頂けるよう雰囲気作りを努めている。意見箱の設置も継続している。	自分の思いや希望を表せる利用者が多く、外出や入浴、献立等の要望は個別対応として希望を叶えるようにしている。家族の来訪も週2～3回から数ヶ月に1回とそれぞれの都合に合わせているが来訪時には生活の様子を話し意見・要望等も聞き、可能な限り対応している。また、敬老会や忘年会などを兼ねた家族会を企画し利用者や家族と交流している。個人情報に配慮した家族会報「いこい」と個人別に日々の様子を記した手紙を家族に送り意思疎通を図っている。家族からも大変親しみやすく丁寧に迎え入れてくれ話し易いと職員の対応の良さに好感を示す言葉も聞かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の意見交換や各会議等にて、各スタッフから意見を聞き検討している。個別の面談をしながら個人とのコミュニケーションをとりながら関係作りを努めている。	毎月、全体会議が開かれ、その後、各ユニットに分かれカンファレンスを行っている。職員はそれぞれのユニットの固定し勤務を組んでいるため職員間の繋がりが強く、働きやすい職場環境となっている。職員と介護課長との個人面談も年2回行われ、気づきやアイデアなども受け入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者会議等を通して各管理者と定期的な話し合いの場を設けながら、様々な議題に対して検討、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画の一つとして研修計画を立て、スタッフ個々に応じた研修等への参加を実施している。法人全体での研修も定期に開催し、社会人としての心構え等学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換や訪問等適宜行い、話し合いを通じて様々な情報を取り入れながらサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談等を行い、本人との入居に向けた話合いの中から、要望や疑問、不安な要素を聞き取り、対応に向けて取組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人への対応と同じく事前に面談等を行い、それぞれの意向や要望、相談等に耳を傾けながら話合いをし、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談時等に双方の相談を傾聴し、意向等全般を勘案しながら様々な方向性を提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の場において、できる事への促しを本人と話しながら実施してもらっている。他者と協働で行えることへの活動も促しながら関係作りに取組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や相談事などを、家族にも相談をもちかけ協力体制を築いている。家族会等を通じて家族との時間も定期的に設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら外出、外泊等自由に行ってもらっている。知人を含めたお祝い会をしたり、文通等も行っている。	利用開始時に本人の生活習慣、知人や友人との関係、商店や行き付けの理美容院などの情報を家族や在宅時の担当ケアマネジャーから得ている。毎年お盆や正月に家族が迎えに来て一時帰宅する方、行きつけの美容院へ家族とともに出掛ける方など、ホームでは馴染みの関係を継続するようにしている。家族以外にも近所の知人などが訪ねてくる利用者もあり、携帯を持っている利用者も数名いる。隣接する特別養護老人ホームに立ち寄る地元の秋祭りの神楽や駐車場で行われるどんど焼き、餅つき、豆まきなどの風習や行事も大切に日々の暮らしの中でメリハリをつけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交友関係を把握し、関わり合い等が良好に続くよう会議等でスタッフ間共有しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所等での生活状況を適宜把握、確認しながら必要な情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活暦や嗜好などを家族から聴取して実施につなげている。日常の生活からも感じ、気付いたことを会議等で話し合い、様々な視点からサービス提供を行い検討している。	殆どの利用者は思いや意向、希望などを言葉で伝えることができ、日々、職員は利用者一人ひとりに話し掛け、言葉や表情から本人の思いや意向を把握しようとしている。職員はまず声掛けをしてから支援をしており、利用者が話し易いような雰囲気づくりをしている。一人ひとりのできること、好きなことも把握しているので利用者も職員の声掛けに合わせ洗濯物たたみや編み物をしたり、家族の了解を得て寿司などの好きなものを食べに出掛けたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に面談を行いながら事前聴取を行っている。入居後は、日々の生活からの情報や、聴取しきれない事などを、本人や家族からその都度話し合いながら把握、確認に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前聴取した内容を基に生活を送ってもらいながら、実際の生活状況を観察、把握していき、本人の有する能力を発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議等の定期開催、本人、家族との話し合いを行い、内容の検討を行いながら計画書を作成し、サービスを提供している。	本人や家族の意向を基に生き生きと楽しく暮ら続けられる介護計画を計画作成担当者が職員の意見や気づきを参考に作成している。ケース記録や業務日誌がパソコンで入力でき介護計画とも連動しており、モニタリングは担当職員が行い更に他の職員も参加するサービス担当者会議も定期的で開催されている。長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月に合わせ3ヶ月毎に見直しを行っている。家族の意向や本人の状態の変化に合わせて目標や援助内容を全職員で見直し現状に即したものにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入内容は、都度改善を図りながら記録をし、介護計画への反映に活かせるよう努めている。個別記録以外にも自由帳などを設け、各スタッフの考えなどを聞きながら実践に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化に応じて、都度話し合いを行い、必要なサービスの提供に努めている。家族からの相談や状況も把握し、対応にあたっている。		

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や各行事等を通じて地域の方たちとの接点をもったり、ボランティアの方たちに来訪して頂き、様々な制作や観賞を楽しんで頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞きながらその時々状況に応じて相談し、かかりつけ医をお願い(変更)したりしている。当事業所からも適宜情報提供をしながら、各かかりつけ医との関係を築けるよう努めている。	ホームには協力医療機関があるが利用前からのかかりつけ医を継続するかどうかは利用者や家族の判断に委ねている。医師によっては往診も可能で、利用者の疾病や健康状態を診ている。専門医の定期受診の付き添いについては家族に依頼している。また、歯科医による往診も可能となっている。非常勤の看護師がおり、利用者の健康管理や職員の相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、個々の状態を把握確認、看護師と連携を図りながら対応し、家族とも相談しながら状態の変化に応じて受診等も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院側と連携を図り、情報の交換や相談に努めている。できる限り主治医や総合病院等へ出向き、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応を入居時に説明し、了解を頂いている。その時々に応じて各機関と連携を図り、出来る限りの対応に取り組んでいる。	契約時にホームのでき得る重度化への対応について本人や家族に説明している。法人として特別養護老人ホームや地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイなどがあり、法人共通の申込書により複数のサービスを選択でき、ホームでの生活が困難になった場合にはスムーズに住み替えが出来るようになっている。ホームでは将来に備え、喀痰吸引の研修に職員を派遣するなどの対策を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等の整備を基に、会議等で話し合ったり、各研修へ参加するなどをして確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行ったり、会議等の時間を使って研修を行い、全スタッフに周知している。特に、水防計画に関しては見直しを行い、地区との協定も含めて話し合いをしながら確認し合っている。	春と秋の年2回、隣接の特別養護老人ホームと同じ日に独自に行っている。消防署員の指導を受け、車椅子の利用者も含め全員が参加し、区長や自治消防団長、近所の方にも協力をいただいている。地震想定も訓練も行い、また、水防計画について地区関係者と打ち合わせている。特別養護老人ホームと地区との防災協定が締結されており、ホームも堅固な建物で、万が一の時、地区の人々の避難場所としても利用いただくように話をしている。スプリンクラーなどの防災器機が完備され、備蓄も確保されており、水害に備え保管場所を2階に移すことも考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族から聴取した本人の人生観等を基に、本人の日々の生活を観察、接しながら様々な思いを把握できるようスタッフ間で共有している。日々支援の中での言葉遣いや対応などは、定期的にアンケートを実施し、各スタッフへの意識付けを行っている。	法人内に権利擁護委員会がありホーム職員も所属し人権の尊重やプライバシー保護についての研修を計画し啓蒙活動にも取り組んでいる。利用者の尊厳の保持に関しては職員アンケートなどで周知徹底されており、全体会議などでも振り返りの場が設けられている。入浴や排泄の介助時に異性介助を拒む利用者には同性介助で対応している。職員は利用者を人生の先輩として敬い、利用者の立場にたった支援に努めており、利用者への声掛けは本人の目を見ながら苗字や名前に「さん」を付け行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での何気ない会話や様子から、本人の思いを汲み取り、本人と話し合いながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースや過ごし方を把握し、可能な限り意向に沿った対応に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理髪業者に入ってもらったり、また理髪店に行ったりしている。衣類等は本人やスタッフが一緒に選んだり、家族に相談をもちかける等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で、習慣的に自宅で食べていた物を持ち込んで頂きながら定時に食してもらったり、個々の嗜好やメニューを考えながら提供している。食事の下ごしらえや片付けなど役割を決めて、それぞれ個人が行っている。	各ユニットとも3つのテーブルを囲み利用者と職員が話をしたり、笑ったりして楽しい時間を過ごしている。利用者全員が常食で、また、自力で摂取することができる利用者が多い。調理はその日の調理担当専任職員が冷蔵庫や頂き物の野菜などを見て献立を作り利用者に向にしたら良いか相談することもある。利用者も皮向き、片付けや食器洗いなどできる範囲でお手伝いしている。家族も参加する夏祭り、敬老会、忘年会などには特別メニューを立て、また、日ごろのおやつにニラせんべいやこねつけなどの郷土食も手作りし楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々状態に応じて、食形態や食内容を検討して対応している。状態の低下が著しい時は、各関係者から指導を頂きながら支援につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方、自立している方も基本、毎食後に口腔ケアを実施している。口腔状態に異変がみられた場合は、医療機関にかかるなどして治療、指導を頂いて対応している。		

グループホーム柳島爐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握内容を基に、声がけや誘導を行ったり、身体状態を考慮して日中トイレ、夜間PTイレにするなど個人に応じた対応を検討し、安易におむつ対応にならないように努めている。	布パンツの方でほぼ自立している利用者が半数ほどおり、基本的に声掛けしないが様子により声掛けすることもある。残りの方もリハビリパンツを着用しているが、トイレでの排泄を大切にしており、排泄リズムや仕草、動きを全職員は共有し利用者の様子をみながら、さりげなく声がけし、付き添いながらトイレへ誘導している。夜間のパットを厚めにするなど本人が使っている介護用品についても見直しを図り本人が使用して楽な物、具合の良い物にしている。歩行時の不安などから夜間ポータブルトイレを使っている方もおり、一人ひとりの気持ちに沿った対応を取っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を随時確認し、必要に応じてかかりつけ医と相談、服薬コントロールをしながら再確認をしている。個々に適した運動も促し実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する時間は決めているが、本人の意向に沿いながら調整し、対応にあたっている。入浴に対する気持ちが一番向いた時に実施できるようスタッフ同士話し合い、工夫しながら対応している。	日曜日以外はいつでも入浴できるようになっており、殆どの利用者が週2回以上入浴している。また、季節に合わせて、柚子湯やりんご風呂などで、色や香りを楽しんでいる。1階はユニットバスで椅子式のリフトが設けられ安全に浴槽に浸ることができ、2階は檜風呂で和の雰囲気を楽しむことができる。脱衣場も床暖で浴室にはパネルヒーターがあり温度差がないように配慮されている。その日の気分により入浴を拒む方もいるが、タイミングや声掛けに配慮し入浴へと繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な一日の流れから、休息する時間帯は概ね決まってはいるが、個々に応じた生活ペースに合わせて対応している。環境面での配慮も行い、居室以外でも休息できるスペースを確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬管理は看護師が行い、その指示の基介護士が提供しているため、連携を密にとり対応している。個々の服薬情報や服用後の症状確認をし、異変がみられた時はかかりつけ医と相談して対応にあたっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な散歩や併設事業所に入所中の家族への面会、家事やレク活動への取り組みなど個々に応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年度計画で決めている外出計画や、地域で行っている各行事などに出かけたりしている。買い物なども希望に応じて出かけている。家族とも自由に外出、外泊等してもらっている。	ユニット毎、または少人数でホーム近くのお寺や神社の周辺を散歩している。今年はその神社で御柱祭が行われ利用者も見学に出かけたという。外出行事として春は花見で松代城址へ、秋は小布施のハイウェイオアシスに紅葉狩りに出かけている。行事外出時には隣接の特別養護老人ホームのマイクロバスを借り車椅子の方も含め出掛けている。ホームの庭には東屋があり、1階・2階ともベランダもあり、天気の良い日には外気を浴び気分転換をすることもできる。	

グループホーム柳島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本、事業所で管理をしているが、本人の希望があればスタッフと一緒に外にかけて買い物をしている。事業所で管理している金銭以外に、本人が所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話でのやり取りをしている。個々に携帯電話を所有している方もいて、自由に家族と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方々の状態、状況に合わせて配置換えを行ったり、必要に応じて危険や不具合がみられた場合は、手すりをつける等可能な範囲で改善している。庭に関しても、利用しやすいよう工夫をしながら改修している。	各ユニットの入口を入ると居間兼食堂があり、その周りを各利用者の居室や台所、浴室、トイレなどが囲んでいる。居間兼食堂の窓も大きく明るい陽射しが差し込み、フロアには3つの大きなテーブルがあり利用者が洗濯物の畳みや縫い物などで過ごしていた。居間兼食堂の並びにはソファが置かれ、その前には大きなテレビもあり利用者が寛げるようになっている。壁伝いの手摺りは赤色で全体の柔らかな色調の中で判りやすいように取り付けられている。全フロアに床暖房が施され、エアコンとともに快適な環境が整えられている。掲示板にはほぼ毎月交流している園児との楽しいひとときの写真が貼られ微笑ましく感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには談話スペースや横になって休めるスペースを設け、その時々で自由に使ってもらっている。食席にも配慮している。使用状況を観察しながら必要に応じて配置換えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は自由に持ち込んで部屋作りをしてもらっている。また、家族と相談しながら寝具類を変えるなど、その時々に応じた対応で工夫をしている。	居室は広く、洗面台、クローゼット、エアコン、飾り棚が備え付けられ、外には洒落たベランダもある。壁紙が豪華でユニット毎に若干違うが室内に落ち着きを持たせている。また、全居室の壁にはアーチ型の掲示板があり行事などのスナップ写真が飾られている。利用者が得意とする裁縫用の針箱や新聞なども置かれ、また、テレビなども持ち込まれ、その人らしい雰囲気が感じられる居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけを行う程度で、容易に判断がしやすいよう各部所に張り紙をするなどの工夫をしている。		